

アイケミテクノ株式会社

2024年度環境活動レポート

(対象期間：2023年10月～2024年9月)

アイケミテクノ株式会社

作成日：2024年12月10日
更新日：2025年4月1日

当社は2005年の設立以来、環境負荷の少ない原料の使用やリサイクル活動を積極的に推進し、持続可能な社会の実現に向けた取り組みを続けてまいりました。

本年も、半導体業界の厳しい経済状況や新型コロナウイルス感染症の影響が残る中、環境負荷低減と顧客満足の両立を目指し、小さな改善を積み重ねてまいりました。

一方で、2024年1月に発生した能登震災は、地域社会と自然環境のつながりについて改めて考える契機となりました。このような自然災害の多発は、環境保全の必要性をより一層強く意識させるものです。

私たちは、こうした状況に向き合い、製品の開発や廃液リサイクルを通じて地域社会と地球環境の保全に貢献してまいりたいと考えております。

今後も変わらない努力を継続し、できる限り環境への負荷の小さな製品の開発に努め、環境負荷の低減を進めて参ります。

アイケミテクノ株式会社
代表取締役 綱島 正夫

私たちは、科学技術の進歩により快適な生活を享受している。しかし豊かさと利便性を追い求める従来の、大量生産、大量消費、大量廃棄を常とするエネルギー多消費型社会は、エネルギー及び資源の枯渇を招き、廃棄物による環境の汚染、ゴミ問題など深刻な社会問題や大気中の二酸化炭素濃度を増加させ地球温暖化問題に直面している。私たちは、ますます深刻化する地球温暖化や、地下資源の枯渇への対応が人類共通の重要課題との認識に立ち、自社製品の製造・開発・販売等の事業活動に於ける環境負荷の低減を図る為に、全社員が一丸となり自主的・積極的に環境保全活動に取り組みます。これらについて環境目標・活動計画を定め、定期的に見直しを行い、継続的な改善に努めて参ります。

1. 持続可能な社会づくりの一環として地域環境問題の対策に取り組みます。
 - 1) 電力・燃料の消費に伴う二酸化炭素排出量の削減
 - 2) 使用原材料の省資源、廃棄物の3 R（減量、再使用、再生利用）の推進
 - 3) 水資源の節水
 - 4) 有害物質の削減及び低減
 - 5) 事務用品のグリーン購入
 - 6) 環境に配慮した製品の開発・販売促進
2. 環境関連法規制や当社が約束した事を厳守します。
3. 事業活動（製造、開発、販売）に関わる事項について全部門にて改善化を行います。
 - 1) 廃棄物は出してから処理ではなく、出さない努力をします。
 - 2) 原料（資源）をなるべく無駄にしない形で使用します。
 - 3) 人体と環境に害の少ない製品を提案します。
 - 4) 機能が同じなら、毒性のなるべく少ない物質を使用します。
 - 5) 化学事故につながりにくい物質を使います。
 - 6) 環境と経費への負荷を考え、設備等の省エネルギー化を心掛けます。
4. 環境への取り組みを環境活動レポートとしてとりまとめ公表致します。

制定日：2010年7月10日

改定日：2012年1月5日

代表取締役社長 綱島 正夫



組織の概要

AICHEMITECHNO Co.,LTD.

(1) 名称及び代表者名
アイケミテクノ株式会社
代表取締役社長 綱島 正夫

(2) 所在地
本社 〒120-0037
東京都足立区千住河原33番地14号
TEL:03-5284-3377 FAX:03-5284-3378
白井工場 〒270-1407
千葉県白井市名内318番地3号
TEL:047-406-3970 FAX:047-492-6175



(3) 環境管理責任者氏名及び担当者連絡先
責任者 技術部部長 芦田 昭雄
TEL: 047-406-3970
副責任者 営業部次長 鈴木 昭仁
TEL: 03-5284-3377

(4) 事業年度
前年10月～当年9月

□認証・登録の対象組織・活動
登録組織名：アイケミテクノ株式会社 本社 白井工場
認証・登録番号 0008178
認証・登録日 2012年4月3日
活動：太陽光発電用のパネルや電子部品関連の製造に用いるクーラント剤、洗浄剤、研削剤、切削剤などの開発・製造・販売

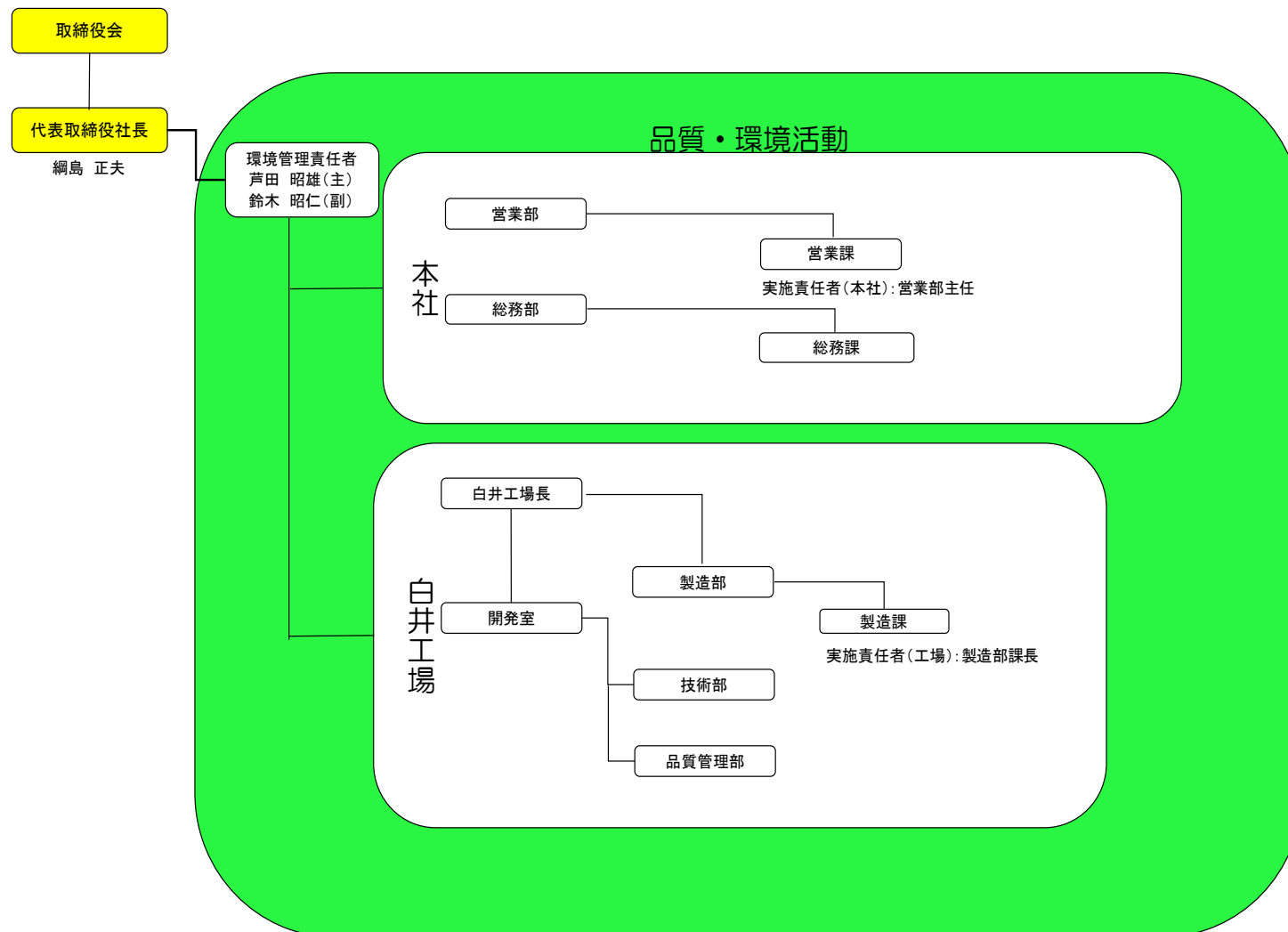
(5) 事業の規模

表 1. 事業規模

指標	単位	対 象 期 間				
		(2023年10月～2024年9月)	(2022年10月～2023年9月)	(2021年10月～2022年9月)	(2020年10月～2021年9月)	(2019年10月～2020年9月)
従業員数	人	9	9	9	9	9
売上高	百万円	217.0	204.0	254.0	246.0	226.0
床面積	m ²	623.2	623.2	623.2	623.2	623.2
生産高	百万円	217.0	204.0	254.0	246.0	226.0
主要製品販売量	t	431.2	471.2	564.9	605.6	635.2
運搬量	t	431.2	471.2	564.9	605.6	635.2
運送距離	km	12,935.7	14,136.0	16,946.4	18,167.4	19,054.8



アイケミテクノ株式会社 組織体制図



社長

- 1) 環境経営に関する統括責任
- 2) 環境経営システムの実施及び管理に必要な、人、設備、費用、時間、技能技術者の用意
- 3) 経営における課題とチャンスの明確化
- 4) 環境管理責任者の任命
- 5) EA21実施責任者の任命
- 6) 環境方針の策定・見直し及び全従業員への周知
- 7) 環境目標設定の承認
- 8) 代表者による全体の評価と見直しの実施
- 9) 環境活動レポートの承認

環境管理責任者（主）

- 1) 環境経営システムの構築、実施、管理
- 2) 法規制等登録の承認
- 3) 環境活動計画書の承認
- 4) 環境活動の取組結果の代表者への報告
- 5) 環境活動レポートの確認
- 6) 環境管理責任者（副）は補佐、必要に応じ主の代行を行う。

EA21実施責任者（主）

- 1) 当社の事業所（本社、白井工場）より任命された者（各事業所に主を各 1 名、必要に応じ副を設ける。）
が EA21実施責任者として、E A 2 1 環境活動に関する実務的運用について責任を負う。EA21実施責任者（副）は補助的な役割を担う。
- 2) 事業者内における環境経営システムの実施
- 3) 事業所内における環境目標等の周知
- 4) 事業所内の従業員に対する教育訓練の実施
- 5) 事業所内に関連する環境目標及び環境活動計画の実施及び達成状況の確認と報告
- 6) 特定された項目の手順書作成及び運用管理
- 7) 事業所内の特定された緊急事態への対応のための手順書作成、テスト・訓練・記録
- 8) 事業所の問題点の発見、是正、予防処置
- 9) 各事業所の施設責任者を、本社に於いては社長とし、白井工場では工場長として環境関連の外部コミュニケーションの窓口とする。

□ 主要監視項目の実績（2021～2024年）

AICHEMITECHNO Co.,LTD.

表2．主要監視項目の実績

主要項目	項目	対象	単位	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	総計
エネルギー使用量	ガソリン	工場	L	560	540	360	400	1,860
		本社	L	1,551	2,324	2,459	1,983	8,318
	液化石油ガス(LPG)	工場	kg	1	0	0	0	1
	都市ガス	本社	Nm ³	0	0	0	0	0
	電力	工場	kwh	13,718	15,359	12,561	13,431	55,069
		本社	kwh	4,436	4,584	4,370	4,293	17,683
主要製品販売量	製品生産量等	事業所全体	t	665	565	471	431	2,132
廃棄物排出量	一般廃棄物	本社	t	58	65	33	44	200
	産業廃棄物	工場	t	220	715	515	1,015	2,465
水使用量	上水	本社	m ³	17	14	13	12	56
	地下水	工場	m ³	714	655	412	637	2,418
温室効果ガス排出量	ガソリン	工場	kg-CO ₂	1,300	1,253	836	929	4,318
		本社	kg-CO ₂	3,601	5,396	5,710	4,604	19,311
	液化石油ガス(LPG)	工場	kg-CO ₂	2	1	1	0	3
	都市ガス	本社	kg-CO ₂	0	0	0	0	0
	電力	工場	kg-CO ₂	6,105	6,666	5,439	5,883	24,092
		本社	kg-CO ₂	1,974	1,989	1,892	1,880	7,736
総計				34,920	40,128	35,072	35,542	145,662

- ・ 当社がエコアクション21に取り組んでまいりました過去実績は以上の表の結果になります。
- ・ 次頁には、原単位（主要製品販売量1t当たり）にて再評価を実施した結果を示します。

表 3. 環境目標及び実績（原単位）

環境目標・実績【2024 年度】

項目		基準値 (基準年度) 2013年	2024 年			評価
			2023 年10月～2024 年9月			達成率 (%)
			目標率 (%)	目標値	実績値	
電力使用量	本社 (kWh)	9.0	-4.8	8.61	9.96	15.6%
	白井工場 (kWh)	24.1	-4.8	22.90	31.15	36.0%
自動車燃料使用量	本社 (L)	18.7	-3.4	18.08	4.60	-74.6%
	白井工場 (L)	1.1	-3.4	1.05	0.93	-11.8%
二酸化炭素排出量合計	本社 (kg-CO ²)	46.9	-3.8	45.10	15.04	-66.7%
	白井工場 (kg-CO ²)	11.6	-3.8	11.20	15.80	41.0%
一般廃棄物の削減	本社(kg)	0.373	-4.8	0.36	0.10	-71.3%
産業廃棄物の削減	白井工場(kg)	1.29	-4.8	1.22	2.35	92.3%
水使用量の削減	本社(m ³)	0.04	-3.5	0.04	0.03	-29.4%
	白井工場 (m ³)	1.0	-3.5	0.93	1.48	59.6%
グリーン購入（購入資材総金額に占める割合）	本社 (%)	26.3	17.5	17.5	66.2	48.7% 増
	白井工場 (%)	16.7	17.5	17.5	100.0	82.5% 増
製品への環境配慮（環境負荷低減に資する製品の販売）	事業所全体 (t)	359.8	11.0	399.4	265.3	-33.6%

〔註〕 2013年度を基準値としている。各値（グリーン購入、環境負荷低減に資する製品の販売量は除く）は製品販売量 t 当たりに換算している。
グリーン購入は実質購入の平均比率を用いている。



環境活動計画と結果及びその評価、次年度の取組内容（１）

AICHEMITECHNO Co.,LTD.

総評（環境活動計画達成状況）

基準年度（2013年）比にて事業所全体で、電力使用量は「-1.67減」、ガソリン使用量は「-76.29減」、廃棄物量は「39.20増」、水使用量は「47.70増」の結果となった。

環境活動計画	結果	継続/変更	評価、次年度の取組内容
電力の二酸化炭素削減			
数値目標（本社：-4.8%削減、白井工場：-4.8%削減）			□現状維持 ■上方修正 □下方修正 □基準見直し
事務室、工場等の照明は、昼休み、残業時等不必要な時は消灯する。	○	継続	電力使用量については、白井工場では7%増、本社では-6.6%減となっている。
ロッカー室や倉庫、使用頻度が低いトイレ等の照明は、普段は消灯し、使用時のみ点灯する。	○	継続	
パソコン、コピー機等のOA機器は、省電力設定にする。	○	継続	
夜間、休日は、パソコン、プリンター等の主電源を切る。	○	継続	
空調の適温化（室内温度25℃程度）を徹底する。	○	継続	
空調を必要な区域や時間に限定して使用する。	○	継続	
使用していない部屋の空調は停止する。	○	継続	
ブラインドやカーテンの利用等により、熱の出入りを調節する。	○	継続	

環境活動計画	結果	継続/変更	評価、次年度の取組内容
自動車燃料の二酸化炭素削減			
数値目標（本社：-3.4%削減、白井工場：-3.4%削減）			□現状維持 ■上方修正 □下方修正 □基準見直し
社用車について、ハイブリッド車や低燃費車、低排出ガス認定車、電気自動車、天然ガス自動車等の低公害車への切り換えに取り組む。	△	継続	化石燃料（ガソリン）使用量については、白井工場では-13.3%減、本社では-78.6%減となっている。ガソリン使用量は本社で使用する営業車の使用比率が高い。
エコドライブ等運転方法の配慮（急発進・急加速や空ぶかしの排除、駐車中のエンジン停止等）を励行する。	△	継続	
タイヤの空気圧を定期的に確認し、適正値（メーカー指定の空気圧）を保つ。	○	継続	
排気ガスや騒音のレベルを抑えるため適正な車検整備の実施する。	○	継続	

環境活動計画	結果	継続/変更	評価、次年度の取組内容
一般廃棄物の削減			
数値目標（本社：-4.8%削減）			□現状維持 ■上方修正 □下方修正 □基準見直し
会議用資料や事務手続き書類の簡素化する。	○	継続	一般廃棄物量については、本社のみを対象とした項目となる。本社での一般廃棄物量は-76%減となっている。
コピー機は、枚数や拡大・縮小の誤り等のミスコピーを防止するため、使用前に設定を確認するとともに、次に使用する人に配慮し、使用後は必ず設定をリセットする。	○	継続	
シュレッダーの使用を機密文書等に限る、シュレッダー処理紙のリサイクルに努める。	○	継続	

評価：◎よくできた ○まあまあできた △あまりできなかった ×全くできなかった



環境活動計画と結果及びその評価、次年度の取組内容（2）

AICHEMITECHNO Co.,LTD.

環境活動計画	結果	継続/変更	評価、次年度の取組内容
産業廃棄物の削減			
数値目標（白井工場：-4.8%削減）			□現状維持 ■上方修正 □下方修正 □基準見直し
生産工程で使用する塗料（原料）や洗浄剤等のタンクを集約化し使用量を抑制する。	○	継続	本社からは産業廃棄物の発生量はなく実質的には白井工場のみを対象とした項目となる。白井工場に於ける産業廃棄物は93.4%増となっている。
品質劣化等による不良在庫を減らすため、在庫数量の適正化等在庫管理を徹底する。	○	継続	
有害物質や有機汚濁物質（生ごみ等）ができるだけ混入しないようにする。	△	継続	
使用後の製品、容器包装等の回収・リサイクルに取り組む。	○	継続	

環境活動計画	結果	継続/変更	評価、次年度の取組内容
水道水の削減			
数値目標（本社：-3.5%削減、白井工場：-3.5%削減）			□現状維持 ■上方修正 □下方修正 □基準見直し
バルブの調整により水量及び水圧の調節を図る。	△	継続	水使用量については、白井工場では56.2%増、本社では-26.4%減となっている。

評価：◎よくできた ○まあまあできた △あまりできなかった ×全くできなかった



主な環境負荷の実績

AICHEMITECHNO Co.,LTD.

表 4. 主な環境負荷の実績

項目			2023年10月 ~ 2024年9月					
			量		料金 (円)	CO ² 排出量 (kg-CO ²)	割合	環境負荷の要因となる主な活動・設備等 (具体的に)
エネルギー使用量	電力1 (本社)	東京電力パワーグリッド(株)	4,293	kWh	128,361	1,880.33	0.14	照明、冷暖房、の稼働 (本社)
	電力2 (白井工場)	東京電力パワーグリッド(株)	13,431	kWh	147,164	5,882.78	0.44	照明、冷暖房、製造、測定機器の稼働 (白井工場)
	ガソリン		2,383.16	L	343,175	5,528.93	0.42	営業車、フォークリフト、発電機の稼働
	都市ガス		0.00	m ³	0			給湯器等の使用 (本社)
	液化石油ガス (LPG)		0.00	kg	0			給湯器等の使用 (白井工場)
	合計 (エネルギー)				618,699.78	13,292.04	1	
一般廃棄物総排出量			26	kg	342			書類、包装材料
産業廃棄物総排出量			1,015.00	kg	177,625			原料などの包装材料
産業廃棄物 (特別管理) 総排出量			0.00	kg				
水使用量	上水		12	m ³	11,142			本社での日常的な使用
	地下水		637	m ³	0			白井工場での原料、設備洗浄
化学物質使用量	プロピレングリコール		33.09	t				主要取扱原料
	プロピレングリコールカーボネート		0.00	t				同上
	ポリカルボン酸		0.00	t				同上
	トリエタノールアミン		35.83	t				同上

※購買電力の排出係数は0.433 kg-CO₂/kWh (東京電力パワーグリッド(株) 令和四年) を用いて算出を行った。

※化石燃料は該当物はガソリンのみで排出係数は0.0671 kg-CO₂/MJを用いて算出を行った。

※総排水量の公共用水域の項目は主力製品の生産量と含有水分の関連から算出を行った。



今年度及び次年度環境目標

AICHEMITECHNO Co.,LTD.

表 5. 今年度及び次年度環境目標

主要項目	項目	対象	単位	2024年度目標	2025年度目標
温室効果ガス排出量	二酸化炭素	事業所全体	kg-CO ²	-3.80	-3.90
廃棄物排出量	一般廃棄物	本社	kg	-4.80	-4.90
	産業廃棄物	工場	kg	-4.80	-4.90
水使用量	上水	本社	m ³	-3.50	-3.60
	地下水	工場	m ³	-3.50	-3.60
エネルギー使用量	購買電力	本社	kW/h	-4.80	-4.90
		工場	kW/h	-4.80	-4.90
	化石燃料	本社	L	-3.40	-3.50
		工場	L	-3.40	-3.50
製品への環境配慮	環境負荷低減に資する製品の販売	事業所全体	t	11.00	11.00

表 6. 中長期目標

主要項目	項目	対象	単位	2026年度目標	2027年度目標	2028年度目標
温室効果ガス排出量	二酸化炭素	事業所全体	kg-CO ²	-4.20	-4.30	-4.40
廃棄物排出量	一般廃棄物	本社	kg	-5.20	-5.30	-5.40
	産業廃棄物	工場	kg	-5.20	-5.30	-5.40
水使用量	上水	本社	m ³	-3.90	-4.00	-4.10
	地下水	工場	m ³	-3.90	-4.00	-4.10
エネルギー使用量	購買電力	本社	kW/h	-5.20	-5.30	-5.40
		工場	kW/h	-5.20	-5.30	-5.40
	化石燃料	本社	L	-3.80	-3.90	-4.00
		工場	L	-3.80	-3.90	-4.00
製品への環境配慮	環境負荷低減に資する製品の販売	事業所全体	t	11.00	11.00	11.00

■ 監視項目の推移（把握全期間：事業所全体）

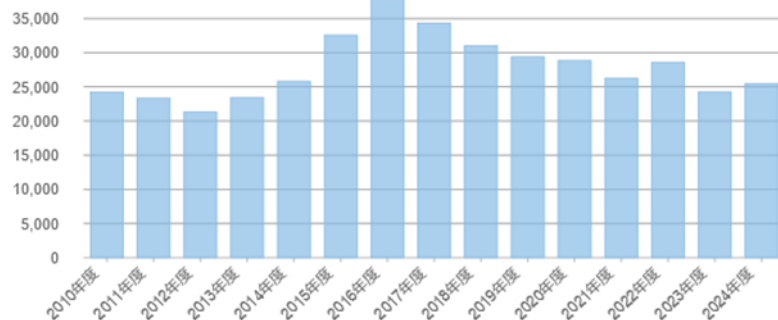


図 1．電力使用量の推移

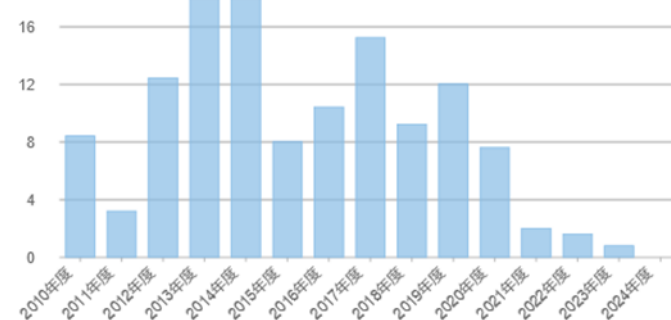


図 2．ガス使用量の推移

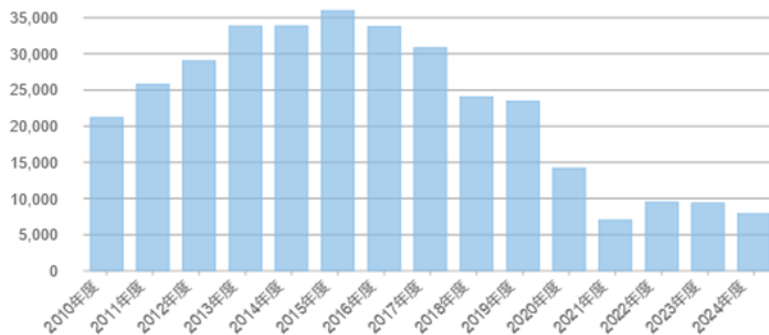


図 3．ガソリン使用量の推移

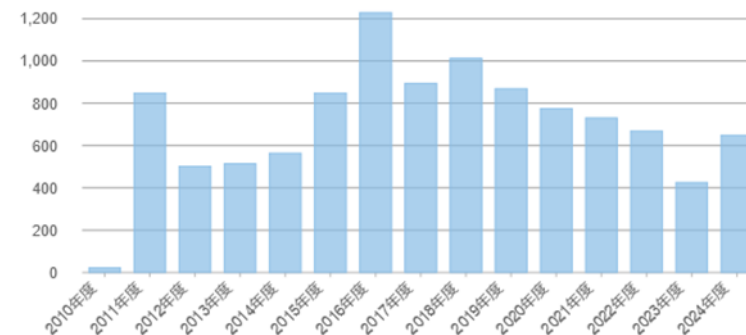


図 4．水使用量の推移

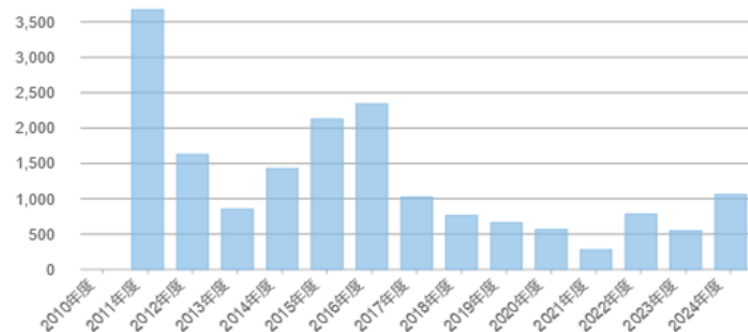


図 5．廃棄物排出量の推移

- ・ 2010年度より各監視項目の使用量もしくは排出量に関する集計データの推移を示しています。
- ・ この結果、エコアクション21認証取得以降（2012年4月）減少に転じておりますが、また2019年度以降はコロナ禍の影響により営業車の使用が減少しガソリン使用量が減少しています。この傾向は当年度（2024年度）も推移しております。

□ 監視項目の推移(事業所別割合)

表 7. 温室効果ガス排出量関連

AICHEMITECHNO Co.,LTD.

主要項目:	温室効果ガス排出量					
対象:	工場			本社		
年度	ガソリン	液化石油ガス(LPG)	電力	ガソリン	都市ガス	電力
2024年度	7%	0%	44%	35%	0%	14%
2023年度	6%	0%	39%	41%	0%	14%
2022年度	8%	0%	44%	35%	0%	13%
2021年度	10%	0%	47%	28%	0%	15%
2020年度	8%	0%	37%	44%	0%	11%
2019年度	5%	0%	29%	56%	0%	9%
2018年度	5%	0%	29%	57%	0%	9%
2017年度	8%	0%	27%	57%	0%	8%
2016年度	9%	0%	29%	56%	0%	7%
2015年度	9%	0%	21%	65%	0%	5%
2014年度	5%	0%	17%	72%	0%	6%
2013年度	4%	0%	16%	74%	0%	6%
2012年度	3%	0%	15%	75%	0%	8%

- エコアクション21の認証取得年となる2012年度からでの温室効果ガス排出量関連する監視項目（ガソリン、電力、ガス）に関して、事業所別に割合を求めた結果が左表（表7）となります。
- また、当年度の事業所別の割合を、図6、図7に示しております。これらの結果から、当社の温室効果ガス排出量に関する特徴として、工場では「電力使用量」に強く依存し、本社では「ガソリン使用量」が強く依存する関連となります。都市ガス及び液化石油ガスの使用量は極めて低くなっております。

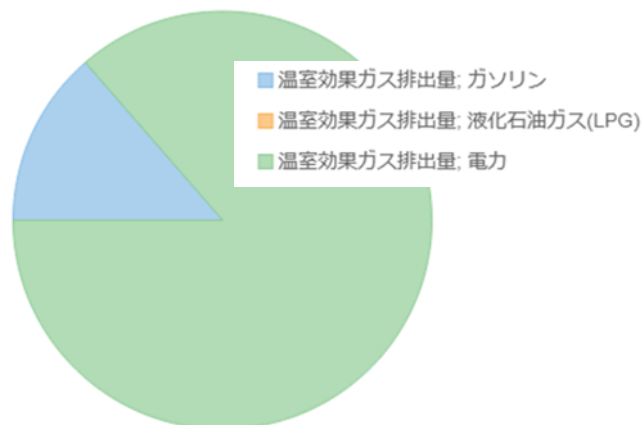


図6. 温室効果ガス排出関連（2024年：工場）

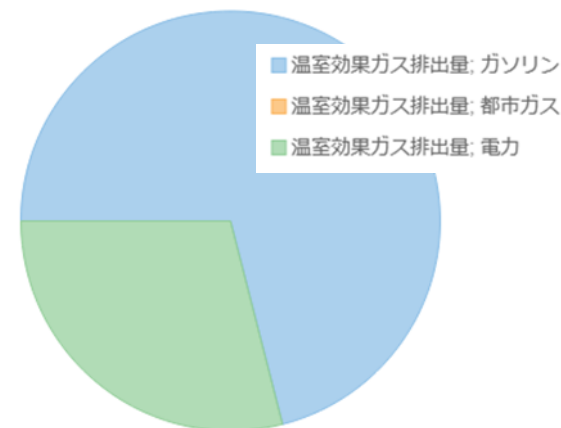


図7. 温室効果ガス排出関連（2024年：本社）

□ 温室効果ガス関連の推移(事業所別)

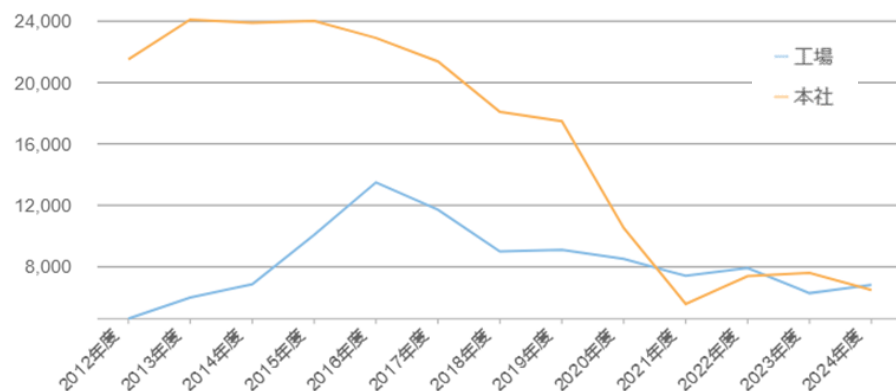


図7. 温室効果ガス排出の推移(2012年～2024年)

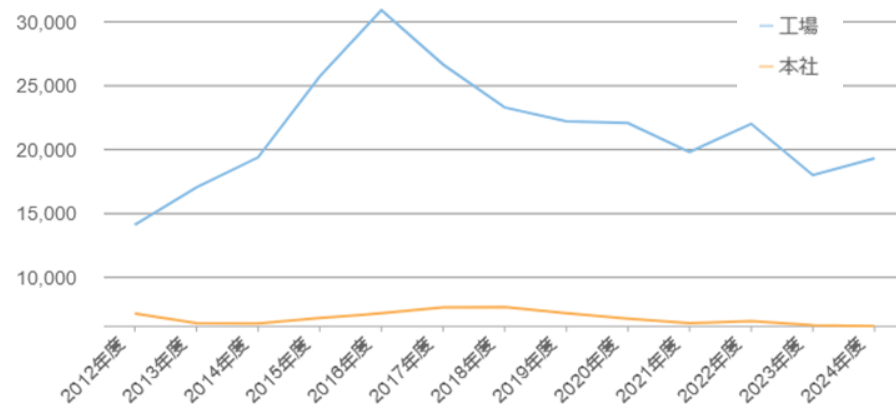


図9. 電力使用量の推移(2012年～2024年)

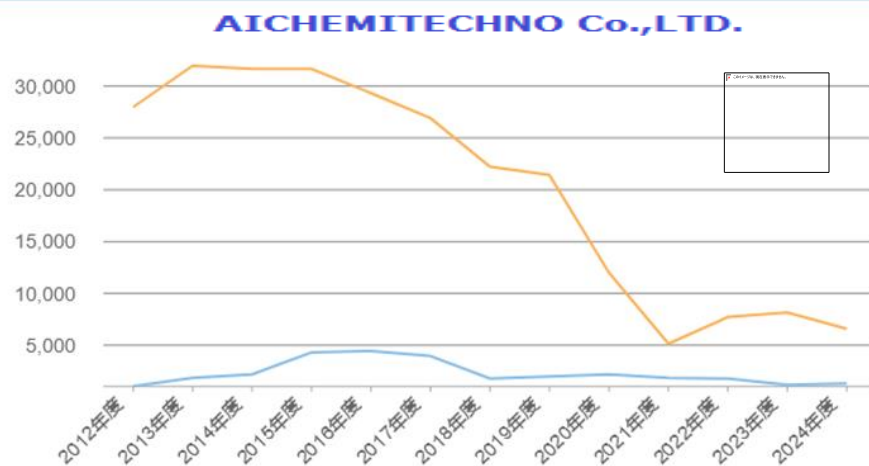


図8. ガソリン使用量の推移(2012年～2024年)

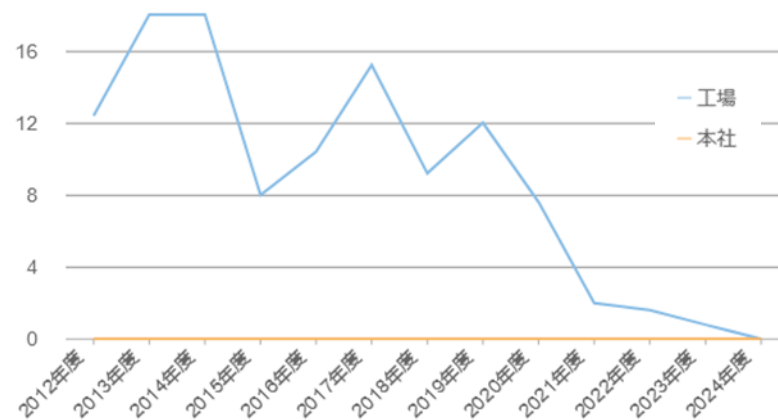


図10. ガス使用量の推移(2012年～2024年)

□ その他監視項目の推移(事業所別)

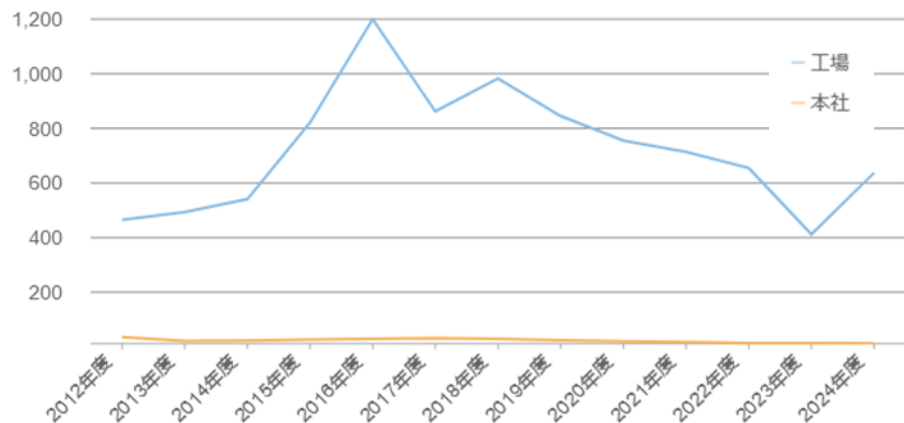


図 1 1. 水使用量の推移 (2012年～2024年)

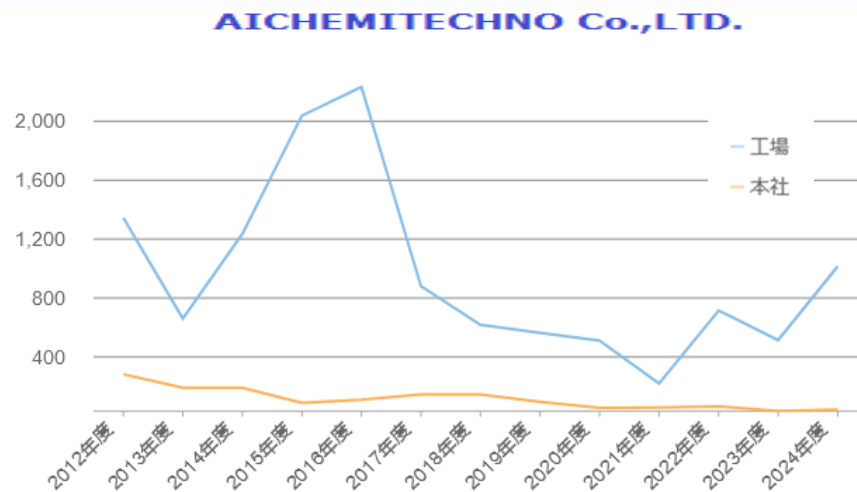


図 1 2. 廃棄物排出量の推移 (2012年～2024年)

- 前頁(P.16)では温室効果ガス関連の推移をプロット致しました。この結果から温室効果ガスは2021年度より低減化されており、影響因子としては本社でのガソリン使用量が減少した事が大きな起因で、コロナ禍以降、Web会議、リモート会議等の頻度が高まった影響か、営業車の利用が大幅に減少した為と考えられます。
- 水使用量、廃棄物排出量は工場の操業、稼働率に伴う影響が高く、抑制するにも限度が伴いますが、一定の効果が得られていると推察致します。

□ 前年比増減変化量の推移

AICHEMITECHNO Co.,LTD.

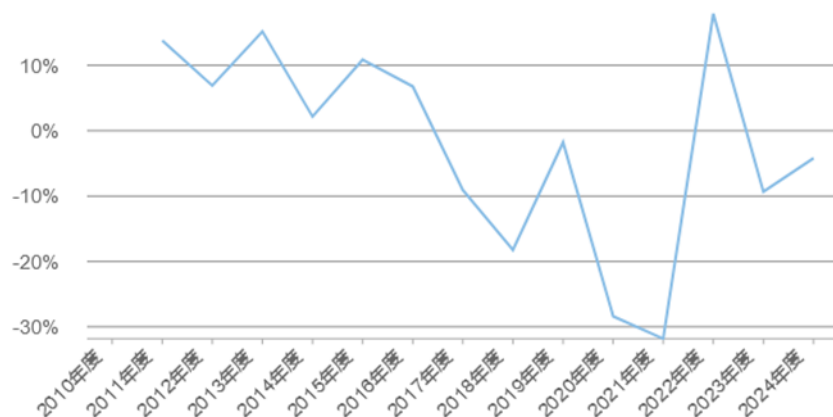


図 1 3．温室効果ガス排出量の前年比推移

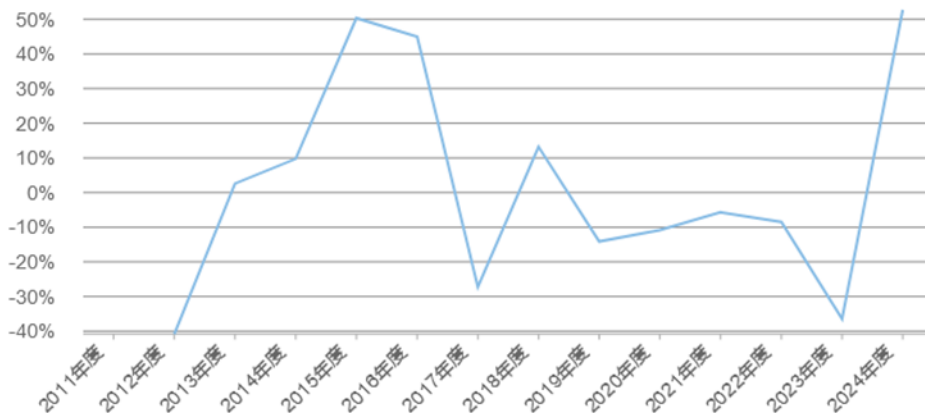


図 1 4．水使用量の前年比推移

- エコアクション 2 1 での取り組みでは、基準年度比で、目標及び達成管理を実施しておりますが、収集したデータを取りまとめ、前年比推移での変化を温室効果ガス排出量（図13）、水使用量（図14）、廃棄物排出量（図15）図示致しました。
- 異なった視点より取り組み成果の評価を行う事で、問題点や課題などを整理する上で明確化でき、今後の環境負荷低減化の繋げて行きたいと考えております。

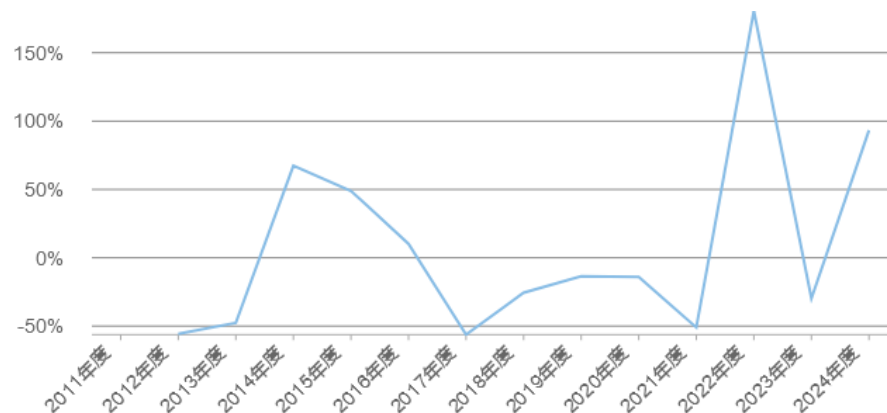


図 1 5．廃棄物排出量の前年比推移



- 当社はエコアクション21認証取得（2012年4月）より、当年度で12年目となりました。この取り組みを評価され、2024年3月に認証局より感謝状を授与されました。今後もこれを励みにしてエコアクション21に取り組んで行く所存であります。
- 国連のグテーレス事務総長が、地球温暖化の時代は終わり、地球沸騰化の時代が到来したと発言され、地球温暖化の危機的な状態を伝えられました。
- 地球温暖化の原因である温室効果ガスの排出増加が、気候変動を加速させ、洪水や干ばつ、猛暑等の異常気象、生態系の崩壊により動植物の減少もしくは絶滅、海面上昇による沿岸地域の浸水、等、巡り巡って経済的損失が生じ、極端な気象現象に伴い幅広い影響を引き起こされている昨今かと思われます。
- 地球温暖化が更に加速すれば、地球沸騰化どころではなく、「地球蒸発化」となり、もはや生命の営みは損なわれるかもしれません。
- 地球規模の大きな問題に、我々に何が出来るかはわかりませんが、些細な事でも意識し、取り組み、実践する事は肝要と考えます。この様な活動をエコアクション21を通じて今後も取り組み、事業活動に取り組む所存です。



当社が法的義務を受ける主な環境関連法規制は次の通りです。

適用される法規制	適用される事項（施設・物質・事業活動等）
化学物質の審査及び製造等の規制に関する法律	所持使用禁止：特定物質 厳重保管：第1種および第2種指定物質
労働安全衛生法	所持使用禁止：製造禁止物質 厳重保管：特定化学物質等、有機溶剤等
毒物及び劇物取締法	所持使用禁止：特定毒物 厳重保管：毒物および劇物
特定化学物質の環境への排出量の把握等及び管理の改善の促進に関する法律（P R T R、S D S制度）	指定物質の使用量の把握及び厳重保管
廃棄物の処理及び清掃に関する法律廃棄物処理法	一般廃棄物、産業廃棄物（金属くず、廃プラ、廃ガラス、廃油等）
化学兵器の禁止及び特定物質の規制等に関する法律	厳重保管：第1種および第2種指定物質
麻薬及び向精神薬取締法	所持使用禁止：麻薬および特定麻薬向精神薬原料
消防法（危険物）	厳重保管管理：危険物
騒音・振動規制法	特定施設としてコンプレッサーが該当

1. 当社に該当する主な環境関連法規制としては、（1）化学物質の審査及び製造等の規制に関する法律、（2）労働安全衛生法、（3）毒物及び劇物取締法、（4）消防法、（5）環境基本法、（6）廃棄物の処理及び清掃に関する法律、（7）特定化学物質の環境への排出量の把握等及び管理の改善の促進に関する法律（P R T R、S D S制度）、（8）化学兵器の禁止及び特定物質の規制等に関する法律、（9）麻薬及び向精神薬取締法、（10）製造物責任法、をエコアクション21の環境法規厳守法令と定めております。
2. 2005年の創業、2007年より工場運用から2024年の19年間に渡って当社では環境関連法規制及び関連法規について違反はありません。また所轄官庁及びその他関連の法人、個人から違反、訴訟の事実もありません。

- 2024年8月8日に発生した日向灘の地震は、マグニチュード7.1南海トラフ地震の想定震源域の西端付近で発生気象庁は「南海トラフ地震臨時情報（巨大地震注意）」を発表しました。
- 首都直下地震や南海トラフ地震などの大規模地震の切迫性も指摘されており、近年は大気中の温室効果ガス濃度の増加により、世界のほとんどの地域で気温が上昇している事も、異常気象をもたらす原因になっていると専門家は指摘しています。
- 大規模地震の切迫性、集中豪雨による、洪水や土砂災害など自然災害のリスクの観点から、ハザードマップのチェックなど、基本的な防災対策を徹底する事が重要であり、自然災害の発生を防ぐ事は難しく、災害は起きるという前提のもとで被害を軽減する「減災」の取り組みについて内閣府防災情報のページ (<https://www.bousai.go.jp/kyoiku/keigen/gensai/tebiki.html>) の減災のてびき（減災啓発ツール）を資料として全社員で情報共有を行った。
- 1. 大規模地震の備え
- 本社は、東京都足立区に位置し、足立区では、北千住駅・西新井駅などの荒川区周辺の区南部で地震時の危険性が非常に高い、地盤そのものが強固とは言えないので、建物の倒壊リスクが高く、建物が密集しており、避難する際には周囲の危険性を留意する。
- 工場は、比較的地盤が強固な箇所に位置しているが、工業地帯の為、建物が密集しており、特に周辺での二次災害（倒壊、火災）による甚大な被害が想定される。この為、周囲の安全が確保されるまで、工場敷地内の安全な場所に留まり情報を収集する事。
- 2. 水害の備え
- 本社は、東京都足立区に位置し、荒川と隅田川の河川挟まれた箇所に位置する。この領域は浸水被害が予想され、大規模な洪水が発生すると陸の孤島と化す可能性があり、早い段階での避難が必要。
- 工場は高台に位置する為、洪水被害の発生は極めて低い。しかし周辺には洪水被害が想定される箇所もある為に特に帰宅時には被害想定地区へは立ち入らない様に留意する事。
- 3. 総括
- 本社、及び工場の所属市町村のハザードマップを確認し、周囲の危険性を認識し、避難場所、避難経路、避難する方角の確認を行う事と可能な限り集団で避難する。
- 工場では、大規模地震に備えて、設備、備品等の転倒、二次災害（特に火災発生）の減災に努め、災害後の復旧を速やかに行えるようにする。
- 日常的に減災を意識して、都道府県庁、市町村が発信する情報に注意を傾ける事。

(2024年を振り返り)

2024年度は、全体的に景気回復の兆しも見え始め、一部電子機器業界も前年比ですが生産が増加するなど、希望が見えてきた年になりました。

物価の上昇などで、全体的な景気感は伸び悩んでおりますが、生成AIを含むAI業界が今後、センサー関連の製造なども後押しすると考えております。

工場の電力や水道関連で目標値の達成はなりませんでした。これは生産増加に伴う一面もあるため、引き続き努力を重ねて参ります。

(2025年度の取り組み)

2025年度の取り組みとしては2024年度の結果を踏まえ、特に白井工場での廃棄物削減が課題になってくるかと思えます。そのため、リサイクルできるものはリサイクルに回せるよう、原料の容器選定なども含めて検討を行ってまいります。

その他新規の顧客向けには、今後も原料のリサイクルや、容器のリユースを推奨し、二酸化炭素の排出や産業廃棄物の削減に努めて参ります。

重ねて、全事業所においてエアコンなどの空調機器使用を適切に行い、電気使用量の削減にも取り組んで参りたいと存じます。

2024年12月10日
アイケミテクノ株式会社
代表取締役 綱島 正夫